

17. Complex Odontoma の 1 例

○鬼塚 一徳, 杉山 和夫, 加来 弘志
黄 隆裕, 原田 和己, 木村 光孝
(九齒大・小児)

歯牙腫はエナメル質, 象牙質, セメント質などの増殖からなる歯原性の腫瘍状病変である。歯牙腫は歯牙の萌出遅延, 乳歯の晩期残存, 炎症性腫脹および疼痛, 無痛性膨隆, 歯列不正, 違和感などを主訴として来院した際, X線診査によって発見されることが多い。歯牙腫の大部分は, 一種の組織奇形であるといわれ, 病理組織学的には過誤腫 hamartoma に属するものであるとされている。

歯牙腫の分類に関しては, 過去より多くの研究者により報告されているが, 現在 compound odontoma と complex odontoma に ameloblastic odontoma を加えたものが病理組織学的分類として頻用されており, 臨床的には単独性歯牙腫と複合性歯牙腫に分けたものも用いられている。

今回演者らは, 4歳11カ月, 男児の下顎前歯部に歯牙腫を認め, 全摘出後, 永久歯の萌出状態を中心に経過観察を行っている。また, 摘出物については病理組織学的検索ならびにSEMによる観察を行った結果, 若干の知見を得たので報告する。